

令和 7 年第 2 回水道事業運営委員会 議事録

日 時：令和 7 年 5 月 22 日（木） 9 時 30 分～

場 所：石狩市役所 2 階 201 会議室

委員出席者：6 名

山田会長・小笠原副会長・中原委員・渡部委員・渡邊委員・横森委員

事務局出席者：8 名

蛭谷部長・吉田課長・新井田課長・金井主査・武渕主査・佐藤主査・

伊藤主査・黒瀬主査

傍 聴 者：0 名

議 事：報告

水道事業の概要について

配 布 資 料：別添のとおり

=====

【 9 : 30 開会 】

- 事務局から配布資料の説明、会議の成立及び会議の公開の報告。
- 蛭谷部長の挨拶に続き、委員の皆様から自己紹介、水道営業課、水道施設課職員の紹介。
- 会長・副会長の選出。
委員から事務局一任の提案があり、事務局案（会長に山田委員、副会長に小笠原委員）を提示（異議なし）。
- 会長挨拶。
- 会長選出により、以後の議事進行は山田会長が行う。
- 山田会長より、議事録の作成方法について「要点筆記」の提案あり、了承。
- 石狩市水道事業の概要について・・・新井田課長から説明

山田会長 水道ビジョン推進の方法として、ワーキンググループに全ての職員が
参画し、若い職員からベテラン職員まで一緒になって水道のことを考え

るというのは、非常に良い取組と考えます。中での意見交換はこのシステムでできると思いますが、例えば同規模の事業体といった、外と意見交換をすることは想定されていますか。

新井田課長 近隣自治体との会議がありますので、そのなかで発信していくことを考えています。また、石狩西部広域水道企業団の構成団体でありますので、他の構成団体も含め、ウォーターPPPなどをどう考えているのか話し合っていきたいと、企業団には伝えています。

山田会長 北海道は、札幌市という大きな水道事業とほかの地域と違いがあるので、物事を同じ考え方で進めるのが難しい場合に、同規模の事業体との意見交換が重要になってくると思います。仕組みそのものを見直すというきっかけも必要で、そういった情報収集もされるといいと思います。

小笠原副会長 この用語集ですが、今お話に出たウォーターPPPは載っていないです。例えば一般的でない言葉が出てきたら載せるようにしたらいいと思います。

山田会長 改訂されるときに加えていただければと思います。

「水供給体制の持続」の中の「人口減少地域における多様な手法による水供給や維持管理など持続可能な水道システムの構築」というのは、石狩市だけではなく全国で解決が求められている問題です。

石狩市でこういったところをゴールとするのか、考えがあれば教えていただきたいです。

新井田課長 浜益地区の実田、濃昼は、人口が減っていて水需要も減っています。水を作るのも少量で難しく、山の方で維持管理も難しいです。人が多かったときに使っていた浄水場の仕組みを縮小できないか、新技術を活用して代替えできないか、現状に合わせた管網の整備や残塩を確保するための維持水量の調整、そういった大きいところから細かいところまで考えていきたいです。

山田会長 具体的な地区を想定して、新しい技術を導入することも踏まえて検討に入ると承知いたしました。

小笠原副会長 会長が言われたように、全国的に非常に頭を抱えている問題です。いろいろなことを検討して、全国のモデルになるものを作って欲しいです。この地区はコンパクトで考えやすいと思います。

新井田課長 水ネットワーク北海道でも可搬式浄水装置をテーマにされますので、いろいろと話を聞き参考にして進めていければと考えています。

山田会長 仕組みそのものを新しくする、今までの考えとは違うことを導入しようするので、非常に難しいですが、今、求められていることだと思います。地元の人にとって安全な水供給を支えることになりますので、是非

進めていただければと思います。

■ 山田会長から委員会閉会宣告。

10時20分閉会

令和7年6月16日議事録確定

石狩市水道事業運営委員会

山 田 俊 郎